



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第17号

目次

- 三重大学が平成16年度「特色ある大学教育 支援プログラム」に採択される
- APAN国際会議に参加・発表
- 大学経営「立命館大学」では
- 大図協総会ワークショップに参加
- 「三重大学四日市フロント」で産学連携活動始まる
- 「工学部技術移転テーマ集」で新技術創出を目指す
- タスマニア大学を訪問

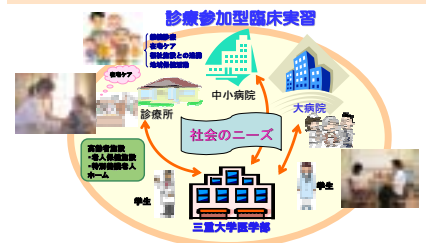
三重大学が平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」に採択される

文部科学省の大学改革支援事業「特色ある大学教育支援プログラム」(http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/tokushoku/03071501.htm)に、今年度は534校の申請があり、選定されるのは約一割と言われているなか、本学の「社会のニーズに即した人間性豊かな医師養成—地域社会を学びの場にして—」(申請担当者：津田 司教授・医学・医療教育開発推進センター長)が採択されました。

これは6テーマあるなかの「教育方法の工夫改善に関するテーマ」で、応募数は国立17校、公立13校、私立69校、共同の取組3件の計102件でした。

医学部では平成7年度から、附属病院での知識重視で観察中心の従来の実習を転換し、地域社会の多様な診療現場での、人間性もあわせながら実践的な臨床能力を養う教育改革に着手しました。そして、入学時から計画的に進められる早期体験実習やPBLチュートリアル教育という準備教育とも連携しつつ「真の臨床参加型を実践した2年間にわたる長期の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)」を実現し、他大学に見られない先進的な取り組みとしてすでに高い評価を受けてきました。今回この取り組みが教育GPに採択されたことは、本学医学部の医学教育が特色ある優れた水準にあることを改めて示すとともに、そこに蓄積された教育理念や方法は、三重大学だけでなく、全国の大学の教育向上における指針になると思われます。

社会のニーズに即した人間性豊かな医師養成 — 地域社会を学びの場にして —



右から山田理事(教育)副学長、津田医学・医療教育開発推進センター長、豊田学長、鎮西医学部長

APAN国際会議に参加・発表

7月4日～6日にかけて、国際交流室長(亀岡理事)はじめ、三重大学のアジア・パシフィック関連スタッフがAPAN(Asia-Pacific Advanced Network、<http://apan.net/>)国際会議(Cairnsヒルトンホテル、オーストラリア)に参加し、この度、亀岡理事が初の文系コンテンツであるe-Culture分野の立ち上げをAPANから任せられ、BoF(birds of a feather、この指止まれ)ミーティングの充実のために同行スタッフが発表を行いました。当日の具体的な発表内容はwebページのプログラムのe-Culture BoF(T. Kameoka)(7月5日11:00～12:30,RoomA)(<http://apan.net/meetings/cairns2004/>)をご覧ください。APANの目的は、アジア太平洋地域における高度なインターネット回線を用意すること、およびその回線を利用した研究や教育プロジェクトを推進することです。今回、BoFの成功により、1月にタイのバンコクで開催されるAPANで正式なe-Cultureセッションが立ち上がることになりました。



大学経営「立命館大学」では

6月29日に立命館大学を訪問し、大学経営について意見交換をしてこられた知切四書監事からの報告です。「立命館大学は2010年を視野に入れた長期ビジョンのもとに4年毎に中期計画を策定しています。計画は理事、教員、職員、学生を含めて全学で協議され策定されます。全ての大学人が計画策定に参加し、自分の計画として認識し、自らの責務を果たします。びわこ・くさつキャンパス開設、アジア太平洋大学開学の大プロジェクトや資格取得のためのエクステンション教育、社会の要請に応えた学部を横断するインスティテュート学部などユニークなプロジェクトもこうした計画から生まれ実現されてきました。しっかりした状況分析から立命館の能力をフルに発揮できる戦略を生み出す計画策定の仕組みには啓発させられました。更に大規模かつ先進的な計画を実現する実行スピードにも驚かせられました。」



大図協総会ワークショップに参加

第51回国立大学図書館協会総会が7月1日に大阪大学で開催され、文科省の三浦情報課長他3名を含む約270名が参加し、ワークショップ「法人化後の附属図書館の役割」の第3セッション『附属図書館の地域・社会貢献』では、本学図書館長（亀岡理事）が司会を勤めました。文科省の「特色ある大学図書館の取り組み」として紹介された三重大学「東南海・南海地震に関するシンポジウム」、山梨大学「子ども図書室」、名古屋大学「東海4県の公共図書館と大学図書館との連携の推進」の報告が各大学からあり、本学は図書・情報部長から、「本学の図書館は防災資料センターとして、地域に根ざした事業を考え、巡回シンポジウムを災害対策プロジェクト室や県との共催で開催した。」と報告があり、亀岡館長は、「地域貢献事業は地域活性化に必要であるが、予算や地域連携の在り方が課題である。」とまとめられました。



「三重大学四日市フロント」で産学連携活動始まる



四日市市を中心とする三重県北勢地区での産学連携を推進するために、工学部（学部長：加藤征三教授）では第1回産学連携懇談会（3月10日）、第2回産学連携懇談会（5月24日）を行い、本学における産学連携、工学部における技術シーズを紹介しました。さらに、北勢地区化学関係企業の技術者懇談会である第60回四研懇総会（6月17日）でも工学部技術シーズの説明が行われました。また7月に生物資源学部も加わり、専門別に産学連携の研究会が発足しました。8月2日には、「新しいものづくりセミナー」も開催されます。

「工学部技術移転テーマ集」で新技術創出を目指す

工学部(世話人：平松和政教授)では、新技術の創出で地域産業の活性化を目指すために、技術シーズの掘り起こしを行い、集まった61件のテーマを材料科学、環境・エネルギーなどの専門分野別に構成し「工学部技術移転テーマ集」として6月に出版しました。この冊子は、図や写真を多用し、企業側が分かり易いものとなっており、今後は、創造開発研究センター、(株)三重TLOとも協力しながら、産学連携活動に積極的に活用する予定です。



タスマニア大学を訪問

7月8日、APAN国際会議に出席したスタッフは、帰途、協定校のタスマニア大学 (<http://www.utas.edu.au/>) を訪問しました。タスマニアは真冬にも関わらず快晴という天候にも恵まれ、非常に充実した訪問となりました。まず午前中に、国際交流センター (International Services) 所長のPaul Rigby氏と会い、academic exchangeの振興について意見交換を行いました。続いて副所長のSusan Lacey氏より、タスマニア大学の留学生データベースの仕組みについて説明を受けました。午後からは、総合図書館の担当者より電子図書館の状況について状況を聞き意見交換を行いました。タスマニア大学は学部構成が三重大学とよく似ている事に加え、この上ない環境と資質に恵まれている大学であることから今後の幅広い国際交流が期待されます。

投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治 (vpre-info@mie-u.ac.jp) または 井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。なお、来月は休刊とさせていただきます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》

編集責任者 / 理事・副学長 渡邊悌爾